

令和2年6月19日

長岡農業普及指導センター

稲作情報 No. 4

昨年並に生育が早まっています 早生の穂肥は遅れずに!!

電話 0258-38-2554

E-mail ngt111440@pref.niigata.lg.jp

1 中干し後の水管理

(1) 中干しは田面に小ヒビが入る程度で終了しましょう。

根張りを良くするため、遅くとも出穂1か月前までには中干しを終了しましょう。

(2) 中干し後は浅水の間断かん水を行い、徐々に飽水管理に移行しましょう。

飽水管理は、発根を促進し、根を健全に保ちます。

中干し後にたん水を続けると、酸素不足による根腐れや下葉の枯れ上がりを招きます。

2 出穂期予想と穂肥時期のめやす

(1) 本年の出穂期は、昨年並で平年より2日早い 予想です。

生育が早まっているため、特に早生の穂肥施用は遅れないようにしましょう。

(2) 幼穂形成期や出穂期はほ場間で差があり、今後の天候によっても前後します。

各ほ場で幼穂確認を行って出穂期を予想し、穂肥の適期を判断しましょう。

表1 幼穂形成期及び出穂期の予想と穂肥時期のめやす (長岡・平場地域)

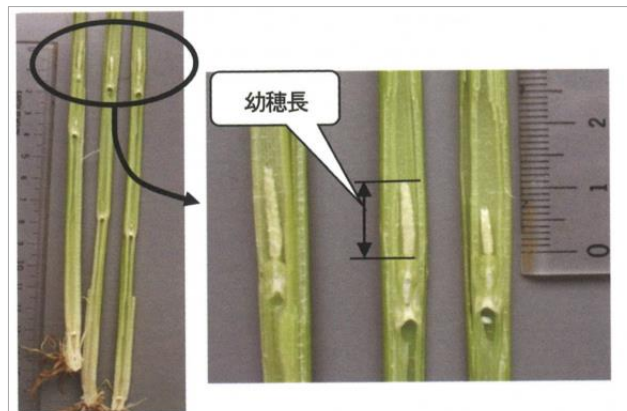
品種名	幼穂形成期	出穂期	穂肥時期のめやす (月/日) (内は出穂前日数)	
			1回目	2回目
新潟次郎	6月23日	7月15日	6/20～6/22 (25～23)	7/1 (14)
ゆきん子舞	7月1日	7月23日	6/28～6/30 (25～23)	7/9 (14)
つきあかり	6月30日	7月22日	6/27～6/29 (25～23)	7/8 (14)
こしいぶき	7月1日	7月23日	6/30 (23)	7/9 (14)
ゆきの精	7月2日	7月24日	6/29～7/4 (25～20)	7/10～7/14 (14～10)
コシヒカリ	7月10日	8月2日	7/15～7/18 (18～15)	7/23 (10)
新之助	7月16日	8月8日	7/18～7/21 (21～18)	7/27～7/29 (12～10)
あきだわら	7月19日	8月11日	7/17～7/19 (25～23)	7/28 (14)
ゆきみのり	6月28日	7月20日	6/27～6/29 (23～21)	7/6 (14)
わたぼうし	6月28日	7月20日	6/28～6/30 (22～20)	7/8～7/10 (12～10)
こがねもち	7月5日	7月28日	7/10～7/13 (18～15)	7/18 (10)
五百万石	6月26日	7月18日	6/28 (20)	7/6 (12)
たかね錦	6月30日	7月22日	7/2～7/4 (20～18)	7/8～7/12 (14～10)
越淡麗	7月15日	8月7日	7/20 (18)	7/28 (10)

(注) コシヒカリの出穂期予想を基にした予想値である。早生品種は5月1～5日稚苗移植を、中晩生品種は5月10～15日稚苗移植を想定して予想した。

3 出穂前日数を予測する

(1) 幼穂の長さの測り方

- ① 平均的な生育の稲を3株程度選ぶ。
- ② 1株の中で長い方から2～3本の茎を選び、株元から茎を引き抜き、図のように幼穂長を確認する。



カッターなどで切って、幼穂の長さを測る。

(2) 幼穂長から出穂前日数を予測する

出穂前日数	幼穂長(cm)
23日	0.1
20日	0.2
18日	0.5～1.0
12日	4.0～6.0

4 早生品種の穂肥のポイント

(1) 分施（基肥＋穂肥）の場合

幼穂形成期(幼穂長 0.1 cmの時期)を確認し、各品種の適期に施用する。

特に、つきあかり、ゆきん子舞では、1回目の穂肥を幼穂形成期に、遅れることなく施用することが多収のポイントです。

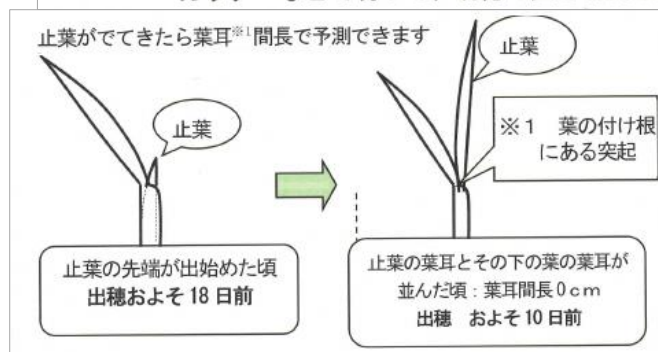


表2 穂肥施用量のめやす（合計施用量を2回に分けて施用する）

品種名	合計施用量 (N kg/10a)	留意点
つきあかり ゆきん子舞	6	1回目3～4kg/10a、2回目2～3kg/10a がめやす。
ゆきの精	2～3	—
こしいぶき	2	砂壤土など地力の低いほ場では、1kg/10a程度多めに施用する。
五百万石	1～2	1回目に重点を置く。
わたぼうし	2～3	—
こがねもち	1～3	生育過剰の場合は遅めの1回施用とし、1～1.5kg/10a以内にとどめる。

(注) 必ず、たん水してから施用する。大豆あと等では生育に応じて減肥する。

(2) 基肥一発の場合

出穂期の葉色が淡いと予想される場合は、追加で穂肥を施用する。

5 病害虫対策

(1) 斑点米カメムシ類

農道・畦畔の雑草は、種子がつかない間隔で草刈りをしましょう。

必要に応じて後期除草剤を使用し、水田内の除草も徹底しましょう。

(水田内の雑草もカメムシの「えさ」になるため、斑点米の原因となります。)

(2) いもち病

いもち病の感染好適条件が観測されています。

常発地やいもち病に弱い品種では、病斑を見つけ次第防除しましょう。

暑い時期になります。農作業中の熱中症に注意しましょう。農作業事故に注意しましょう。